

浜松市立図書館評価 (平成 28 年度)

1 利用に関する評価結果について

項目	単位	実績 28	目標 28	達成率	自己 評価	外部 評価
利用に関する評価					C	B
新規登録者数	人	29,798	22,907	130.08%	5	
有効登録者数	人	184,876	182,845	101.11%	4	
登録率	%	22.93%	22.77%	100.68%	4	
年間貸出冊数	冊・点	4,576,015	4,789,539	95.54%	3	
市民1人当たりの貸出数	点/人	5.67	5.96	95.13%	3	
登録者1人当たりの貸出数	点/人	24.75	26.19	94.49%	2	
年間貸出利用者数	人	1,179,417	1,208,544	97.59%	3	
相互貸借						
借受数	冊	3,507	—	—	評価せず	
貸出数	冊	1,748	—	—	評価せず	
年間入館者数	人	2,803,853	2,859,458	98.06%	3	
市民1人当たりの入館回数	回	3.48	3.56	97.64%	3	
図書館HPアクセス数	件	1,316,863	1,515,000	86.92%	1	
市民1人当たりの図書館HPアクセス数	件	1.63	1.89	86.55%	1	

【自己評価】

【評価の内容】

- 評価対象 11 項目について、達成率に基づく 5 段階評価の結果は、評価 5 (1 項目)、評価 4 (2 項目)、評価 3 (5 項目)、評価 2 (1 項目)、評価 1 (2 項目) となり、平均評価点で 2.91 (27 年度 3.55) となったことから、「利用に関する評価」としては 3 段階による自己評価を C (27 年度 B) とした。
- 新規登録者数については、対前年度比で 21.32%増と前年度に引き続き高い伸び率を維持し、有効登録者数、登録率も増加している。平成 28 年度は新たに都田図書館が開館したことが要因として挙げられる。
- 年間貸出冊数、年間貸出利用者数ともに目標値には達しなかったものの、年間貸出利用者数は対前年度比 3.49%増となり、平成 25 年度以来増加を続けている。
- 図書館 HP アクセス数は平成 25 年度以降増加し続けているが、今年度の対前年度比は 1.82%増 (26 年度 51.00%増、27 年度 6.88%増) とやや鈍化している。24 年 10 月にインターネット上での予約が可能となり利便性が向上したが、その後、利用者が固定化してきたことが考えられる。

平成 28 年 11 月実施 「浜松市立図書館 利用に関するアンケート調査」集計結果より

	貸出サービスに満足していますか? (図書 12 冊・AV 資料 3 点、15 日間貸出)	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
		5	4	3	2	1
全館	4.36					

- 貸出サービスに対する満足度は前年度より 0.03 減少した。

項 目	認 知 度 (%)			平 均 点 (5 点満 点)
	知っている	知らない	未 回 答	
図書館のホームページ	76.68	12.05	11.28	4.00

- ・認知度は前年度より 4.73 ポイント減少したが、満足度は 0.07 増加した。

【課 題】

- ・登録者 1 人当たりの貸出数の増加
新規登録者数の対前年度比が 21.32% 増であるのに対し、登録者 1 人当たりの貸出数の対前年度比は 2.48% 増（貸出延長を含む比較）である。登録の増加が貸出数の顕著な増加には繋がっていない。
- ・図書館 HP アクセス数の増加
アクセス数、満足度ともに増加はしているものの、市民 1 人当たりの HP アクセス件数が少ない。

【今後の方策】

- ・時宜を得たテーマによる企画展示や講座等のソフト事業を積極的に展開することにより、来館者を増加させるとともに、ソフト事業が図書館資料の利活用に繋がる工夫に努める。
- ・魅力あるホームページの作成に引き続き努めるとともに、図書館内外の掲示物や配布物、関連機関との連携を通じてホームページの存在とその機能を積極的に PR し、認知度を高める。
- ・プル型メディアであるホームページ、プッシュ型メディアのメールマガジン、即時性や拡散性があるツイッターのそれぞれの長所を活かした情報発信をこまめに行い、図書館及び図書館資料の利活用を呼びかけるとともに、SNS 利用者にホームページの機能を紹介するなど各媒体への相互誘導も行う。

↓ 「浜松市立図書館評価（平成 29 年度）外部評価用紙」に基づいて記載

【外部評価】

【評価の内容】

- ・目標未達の項目はあるものの、新規登録者数、年間貸出冊数等は毎年増加している。アンケートの満足度も高い。都田図書館新設に伴う要因があるとはいえ、評価できる。
- ・有効登録者数は横ばいである。
- ・社会情報資料は新しい年度のものを見たいが、選書に魅力がない。
- ・ホームページへのアクセス数は毎年微増しているものの、使い勝手には改善の余地がある。

【課 題】

- ・前年までの傾向で目標数値を決めるのではなく、図書館の存在意義や事業計画、前年までの課題への対策を基に目標を決めるべきである。
- ・生涯学習の観点から、日常生活の中に図書文化・図書館が必要不可欠になっていくことを示す数値として有効登録者数を増やすことが重要である。
- ・新規登録者数が増えた割には貸出数が伸びていない（特に、細江図書館は、蔵書規模に比して貸出冊数が少ない）。貸出冊数が伸びない原因を分析、把握するとともに、魅力ある PR を行うべきである。